

常磐夕日

發行日 每月五日
二部五錢
印刷所 高橋竹四郎
發行所 磐城タイムス社
諸橋元二郎

釜屋商店
平町五丁目
諸橋守次
諸橋元二郎

年頭の感

昭和庚午の意義深き新春を迎え聊か年頭の感を開陳せんとす

一、本紙は正義を標榜し大衆の味方として奮闘す

右の如き使命を帯び徹頭徹尾自我の鐵塔に據りて勇猛邁進筆端火を吐く文陣に意義大所感所信を披レキせん

常磐タイムス社
昭和庚午元旦

納豆賣

「納豆……」と清園
毎朝未だ霜深い凍りついた路を踏むで、此のさむ空に洗ひ薄れた綿目もよほは見えない破れた袴一枚に身を包んで何本かの納豆を籠に突込んで背ひ、ふるひながら……それで呼ぶ聲は高く町内を廻つて歩く、ヤトハツが九ツと見える名は欣次と云つて服装こそ見すばらしいが何處かに氣品を備えた少年がある。
今日もいつものやうに五丁目の釜屋といふ東北切つて有名な金物店の横町を通りかかつた時下女らしいのが「納豆屋さん」と呼び止めて「四五本あつた納豆を皆んな買つてくれた。欣次は涙さへうかべる迄に感謝の面持ちで、
「お婆さんいつも有難う」と何度か頭を下げて行き過ぎようとするとき、下女らしいのが急に呼び止めて「寒いだろうよ」とも同情するよな面持ちで話かけた。そして
「もう納豆も賣れ切れたよ。だからチツトお婆さんとこであつて行つてはどう。あまりにも寒いよな憐れみぢやないか。お婆さん、思つたのであろう、家へ入慮しながらそれでも温かい情の言に嬉れしやうに二三度叩頭して
「僕は寒くないの、家に居る母ちゃんの事を思ふとこゝろ歩いて歩く位なんともないんぞ」
「あら、だつて母さんのことが勝手の方から『お竹さん』を思ふぞ寒くないつて……と小僧らしいのが呼ぶ聲に欣次の話す處によると、欣次は返つたやうにそれでも「薪炭米穀等のあきないを云ふの、可愛想な者は恵んでやれ……」と云つてアンタ程の店であつたが、数年前の聲を聞きつけてはいつか父の鈴村欣一は營業上の失言を聞きつけてやれよ、と仰敗から氣を腐らしたのが病言のよ」
「そうお婆さん、こんな立派な家の人でも僕のことか死んでしまつた、三人のんかさう云つてくれるのか。幼兒をあづけられて、杖柱ナア」感謝の涙に目が輝いともする夫に先立たれたお口へ突込んだまゝ奥の方を里は、財産は傾く夫には死なれると云ふ悲惨さに遭遇して以來、それからの鈴村一家はなすことすること一つとして恵まれぬ破目となつては今迄相當に暮して居た時は用もない者までが盛んにチャホヤして出入した誰彼れもが見向きもせぬ海水のやうな人情浮薄な世の中の人々の仕打ちに、當時は怒つて見たり、泣いて見たり、元來が負けじ魂の強いお里は僅かばかりの諸道具を賣り拂つて資本に替へ、炭礦通ひの行商を思ひ立つて以來、五つになるに涙さへ流して聞いて居たに勝手の方から『お竹さん』を思ふぞ寒くないつて……と小僧らしいのが呼ぶ聲に欣次の話す處によると、欣次は返つたやうにそれでも「薪炭米穀等のあきないを云ふの、可愛想な者は恵んでやれ……」と云つてアンタ程の店であつたが、数年前の聲を聞きつけてはいつか父の鈴村欣一は營業上の失言を聞きつけてやれよ、と仰敗から氣を腐らしたのが病言のよ」
「そうお婆さん、こんな立派な家の人でも僕のことか死んでしまつた、三人のんかさう云つてくれるのか。幼兒をあづけられて、杖柱ナア」感謝の涙に目が輝いともする夫に先立たれたお口へ突込んだまゝ奥の方を里は、財産は傾く夫には死なれると云ふ悲惨さに遭遇して以來、それからの鈴村一家はなすことすること一つとして恵まれぬ破目となつては今迄相當に暮して居た時は用もない者までが盛んにチャホヤして出入した誰彼れもが見向きもせぬ海水のやうな人情浮薄な世の中の人々の仕打ちに、當時は怒つて見たり、泣いて見たり、元來が負けじ魂の強いお里は僅かばかりの諸道具を賣り拂つて資本に替へ、炭礦通ひの行商を思ひ立つて以來、五つになる

三井吳服店
柏原幸次郎

謹賀新年

- 小田炭礦株式會社
- 入山探炭株式會社
- 湯本同運送合資會社
- 平運輸株式會社
- 東部電力平營業所
- 湯木用無盡株式會社
- 公認磐城自動車學校
- 古河炭礦々業所
- 有限信用組合平庶民金庫
- 山崎合名會社
- 平材木商業組合
- 堀江工業所
- 片磐城製絲株式會社
- 小名濱町 清酒 釀造元 小野晋平
- 豊間村 大敷網事務所
- 平町會議員一同
- 平町料理屋組合
- 豊間料理店組合
- 平西洋料理業組合
- 石城郡第一區小學校長會
- 同第二區校長會
- 同第三區校長會
- 同第四區校長會
- 平三業保健組合 佐々木金次郎
- 宮二業保健組合
- 四倉藝妓屋組合
- 平健指業組合
- 平旅館業組合
- 朝鮮炭礦 戸部光衛
- 石城郡銀行組合
- 小名濱町 大敷網事務所
- 町公立學校長懇話會
- 平町藝妓屋組合